

(令和 5 年 6 月 9 日 午前 10 時 40 分)

●議長 (佐藤武雄) 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の 7、佐藤博一議員。

- 1、人口増施策について
- 2、企業誘致について
- 3、外交努力について
- 4、来賓の位置付けについて

議席番号 6 番、佐藤博一議員。

◆6 番 (佐藤博一) 議席番号 6、佐藤博一でございます。4 つの質問をしたいと思います。まず最初に、人口増施策について、ということで、通常、昨日の同僚議員の質問の、例えば、DX イノベーションを使ったそういったところでは、人口減少対策、同じことですよ、私は、信濃町の人口減少、減少と、減ることを嘆くのではなく、やはり前向きに人口増、どうやったら増えていくか、そういうところに重く観点を置きながら考えていきたいと思っております。まず人口増となると、当然当たり前のように、自然増とか社会増とか言われるところありますけれども、それに反対の自然現象、社会現象があります。そういったのは別として、どちらかというところですね。移住して来られる方のことを中心に話を聞ければと思っております。当然、住む所については、町も総務課さんあたりが力を入れて、バックアップしていると思います。生活をしていく上では、働く場所、これは雇用であり起業であり、場合によってはリモートというようなパラレルワーク、そんな言葉も聞こえている昨今でございます。そこで町長にお伺いしたのですが、移住される方々のお仕事、一番の収入源、そういったものをどのように、皆さん、当然これ、まったく個々違うのは当たり前なんですけれども、移住される方の仕事というものを、どのようにお考えになりますかという、来る方に対して、別にこれで制約するわけじゃないんですけれども、どういう仕事の場、どういうふうにして働いていただいたら、皆さん、もっともっと移住の方が増えるんじゃないかなという、そういった町長の思いをお聞かせいただければと思っております。

●議長 (佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長 (鈴木文雄) ただ今の、佐藤議員からの質問にお答えいたします。移住されてこられた方の仕事をどのように提供できるか、あるいはどのように考えるかということかと思っております。私が思っておりますのは、信濃町の主たる産業の柱といたしましては、やはり農業と観光ではないかと思っております。その他にも製造業、建設業、いろいろな業種があつて一つの町を構成しているとは思いますが、携わっている方々の人数というものを考えますと、やはり農業、そしてまた観光ということになろうかと思っております。

で、できればそういった分野に参入いただいて、両方とも、経営的にも非常に厳しい状況になっておりますので、そういう分野を下支えしていただくような形で仕事についていただければ、大変ありがたいなと考えているところです。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 農業と観光、これは前町長も、よく信濃町は、農業と観光で成り立っているとおっしゃっていました。私はその面で同じことを思っていたわけですが、また今も鈴木町長からも農業、観光、そういった主要産業に携わっていただければありがたいかなと、そういう方向でございますが、その中で、移住してきた方とか、また協力隊の方ですが、皆さんが3年とかやられた後、農業にやはり従事したいと思われるというような話を聞いたことがあるんですが、ここで産業観光課長にお伺いしたいのですが、そういった農業に携わりたい、それも新たな方が、今まで経験のない方が、就農したいというような時に、町として何かメニュー、またお手伝いできるようなことがあるのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 例えば農地の取得であるとか、貸し借り等の、一番最初はたぶん農地をお持ちでないという方、今いろいろな方がいらっしゃいますが、そういう方につきましては、農業委員会の窓口を通しましてご相談を伺ったりしているところです。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 今、農地だけでお話しいただいたんですけども、実際の農作業ですとか、そういったことに関する指導は、これは当然JAさんとかあるので、企業的にはJAさんがやっているところだと思うんですけども、役場としてはそういった面は特にやってないのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 技術支援的なことかと思いますが、町役場では直接的には行ってございません。ですがJAさん、それから県の機関もございまして、そちらの方にお繋ぎしたり、あるいは移住されてきた方が人的なコネがあったりして、例えば近くの師匠と言いますか、になるような方を見つけて直接ご指導をいただいているというようなお話も伺っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) 県の指導員さんとか JA さん、そういったところは、実は話は聞いたことがあって、役場としては特にやってはいないと。個人的な繋がりの方というところで、そこに視点を置いてみたいんですけれども、先ほどの町長の答弁の中で、観光と農業となると、これがさらにそこに移住をつなげて移住と観光と農業というような町にして、今現状、農業は高齢者、高齢化が進んでおりますし、やはり荒廃地というものが増えております。そういった所をどう今後つなげていくか、そこに移住者の方を、町として繋いでいくか、さらには観光も、先ほど同僚議員が質問をされたように、観光協会さんの協会員数がもう 100 を切っている状態でございます。これが観光協会に属してない観光事業者さんも多々いらっしゃると思うのですけれども、そういった事業者さんも高齢化してきております。私の知っている方々も、廃業を考えようとか、もうそろそろいいかなという方もいらっしゃいます。そうなる、そういった方にも移住の方をおつなぎして、場合によったら建物をお借りしてリノベーションして、何かこうやっていく方向とか、やはり町の基幹産業の農業と観光を、移住の方のお力を借りながらどう守っていくかという、そうなる、農業と観光と移住の方で盛り立っている町だということも一つの柱の中に入れていく、その辺は町長、今申し上げたこと、どう思われますでしょうか。

●議長 (佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長 (鈴木文雄) ただ今の佐藤議員からご指摘をいただいた点、大変重要なポイントと思っております。昨日も町内に移住された 30 代の方が役場の方にお見えになって、いろいろ意見交換させていただいたところでありますが、やはり農業と観光、特に昨日お話ししたのは、観光に携わっている方なんですが、地元の方々が高齢化して、仕事をあと何年できるかなというような状況になっている方が何人かおられるので、そういう方々の事業を継承してもらえないかというような話を、少し出してみたところでありました。その方は、ぜひ具体的な内容を承知したいということでしたので、後日ご案内をして、現在やっておられる方との意見交換などを積み重ねていきたいと考えております。昨日はそういう事例でございましたが、農業に関しても同じようなことが言えるかと思えます。そしてまた、すでに富士里の方では、若手の農業者が有機栽培に取り組んでいたり、あるいは農作業を一つの売りにして、活動されている方もおられるとお聞きしておりますので、そういった若い力をどんどん生かした町づくり、そういうものを進めて行ければと思っているところであります。以上です。

●議長 (佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) 今、昨日町長がそういった懇談なり、お話しされたということでございますけれども、農業、観光に限らず、町内で商売をやってらっしゃる方も、また然りでございます。これはまさに事業継承という意味で、後を継いでくれるお子さんなりがいればいいんですけれども、次に引き継いでくれる方がいない場合、それもさて、どう

しましうかとなると、これもまた新たな稼ぎ手は移住者かもしれません。そういった意味で、この町内全体で、先ほども農業等を売りにしていらっしゃる方がいらっしゃると、観光的にですね。となると、あとはこれを全国的にどう話をしていくかとなると、発信だと思うんですよ。そういったところで情報発信については、これから今申し上げたようなことも含めまして、新たな観光と農業の町だということを、やはり町長の言葉で発信していただければなと思うんですが、そういったところは、発信についてはどう考えますでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 佐藤議員がおっしゃられるとおり、あらゆる機会、あらゆるツールを使って情報発信に努めてまいりたいと思います。役場の方でも、ありえない田舎町ということで、閲覧数も伸びておりますので、そういうツールを使って積極的に対応をしてみたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 情報発信につきましては、様々なツールがございます。場合によったら都市部で行われるイベント等に、これは、移住相談会とかでは総務課さんの方で、たぶん職員が出向いていると思います。そういった所で、職員の活躍が大だと思えますし、さらには町長は多忙でございますから、小林副町長がそういった任務を都市部なりパイプ役としてあちこち出向くような、町長、そのような副町長に仕事を仰せ付けることはないでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 実は今年4月から、東京の銀座 nagano という県のアナウンス施設があります。毎月第3水曜日の夕方、信濃町の日ということで、スペースをお借りしております。ここへ私、副町長さんと相談させていただいて、ぜひ顔を出して、東京での活動が実際どのように都民の皆さんに伝わっているのか、その辺を確認できればと考えているところでございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 実にいいことを伺いました。副町長にあらわれては、産業観光課長も経験され、総務課長も経験され、かなり視野が広い方だと私は思っております。また、副町長は質問の答弁者に出てはいませんが、そういった、今町長から例えば銀座 nagano、場合によったら、東京に長野県の事務所もありますし、癒しの森関係の企業も多々ございます。そういった所に営業活動、もしくは場合によったら癒しの森に、ある企業さん

がお金を投入してくださっているような場面もあると思うんですよ。そういった営業活動に、都市部なりに行くという、そういったことは命ぜられれば、その辺は大丈夫でありますでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 小林副町長。

■副町長(小林義之) イベント等の東京での参加ということでございますけれども、今まで企業誘致の関係を副町長がやっていた部分もございまして。ただ新型コロナの影響で訪問が、なかなかできなかったということもありますので、コロナ、まだすべて回復となったわけではないのですが、状況を見ながら訪問をさせていただいたりして、企業誘致も含めて癒しの関係ですとか、産業観光課長の時代にはそういう所へも行かせていただきましたし、移住関係につきましても、総務課長の時には同様にイベントにも参加させていただいておりましたので、また折を見る中で、そういうことで訪問していければと考えております。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 私の質問が人口増から、今ちょっと副町長の方から企業誘致という言葉で、次の質問の項目の方までだいぶ私自身もちょっとずれた面もあります。ここでちょっと軌道修正したいんですけれども、先ほど農業について、町からのお手伝い云々で質問をしました。そういった農業を、今後さらにやりたいというような方が増えた場合、個人的な考えですけれども、町に小さな農業公社みたいな組織をつかって、機械等を準備するなりして貸し出していかれるようなミニ農業公社的なもの、どうなのかなとちょっと考えていたら、これは産業観光課長にもちょっと以前お伺いしたんですけれども、予算書を見ていたら農業振興公社準備基金積立金という項目があるんですよ。これについては産業観光課長、どういう意味ですか。教えてください。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 基金の始まった時期は、たぶんふるさと振興公社の立ち上げの頃なのかなと、私の中で認識しております。毎年定額で、少額ではございますが、積み立てをさせていただいているところです。ただし、用途、それから積立金の将来性等、方向性については具体的なものは今は無いです。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 少額、調べたら、1万数千円を毎年積んでいると。これが、20数年か30年ぐらいの話だと思うんですけれども、掛け算したところで知れています。こういったミニ農業公社的なものができたら、それも一つのうちの町の売りにならないかなと

思ったんですけれども、ちょっと突拍子もない発想なんです、町長、そういうところは どう思いますか。

●議長 (佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長 (鈴木文雄) ミニ農業公社のような組織をつくって、受け入れなり技術支援を充実することがどうかということかと思えます。議員のおっしゃるとおりだと思います。それで私が思いますのは、先ほど来から出ております、若い世代に引き継いでいくために何が必要なのかということ、関係の皆さん、JA さんも含めて相談させていただく中で、現行のいろいろな仕組みもあるわけですが、そういった仕組みを補完できるようなことがあるとすれば、町としても考えていかななくてはいけないかなとは、思っております。以上です。

●議長 (佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) 今、町長の答弁の中に、現行の仕組みと当然おっしゃられたんですが、やはり若者をそこに呼び込むには、今までどおりのものではだめだと思うんです。それを取っ払って新たなものを作り上げて、若者の発想で物事を進めて行く、さらには、移住者に知恵をもらうとか、やはり古いままでやっていると、同じ農業をやるにしても、それを守っていくにも、観光を進めるにも、やはりよく言いますよね、若者、馬鹿者云々という言葉があると思うんですが、やはり今、とっくにそういう時代は来ちゃっております。それを古いものをただ守るだけの町ではない方向に、町長が引っ張っていただければなと思います。先ほど副町長の方で、企業誘致に関して、次に進みますけれども、そういった答弁があったんですけれども今まで、ここ数年、特にコロナのここ 3 年ぐらいは厳しいなと思いましたが、さらにさかのぼって、その数年前は、企業誘致ということは、あまり行われてなかったのではないかなと。せつかく、例えば先ほどの癒しの森の 30 数社の提携企業さんがいらっしゃいます。そういう企業さん回りをすることで、何かしら情報、さらにその 30 数社がそのお得意さんなり、関連されるところを持っていけば、かなり広がった末広がりのような形で、企業を回れるんじゃないかなと。先ほど副町長が、今回これも副町長に通告を出していませんでしたけど、企業誘致、そういったこともやっていければなとおっしゃったんですが、町には、信濃町企業誘致条例、そういったものがあって、その中に企業誘致の審議会というのがあります。これが、一番の審議会は町長の諮問に応じて、ちょっと記憶ですけれども 10 年前、私がやったときは、とある企業さんが信濃町に進出するにあたって、取得した土地の価格の 100 分の 25 を町として、議会の承認を得てお支払いをしたという経過があります。結構莫大な金額でした。そういったことを審議会、当然これ金融機関さん等が入っていただいて審議するわけなんですけれども、その審議会、企業誘致条例の中の審議会の仕事の中に、町長の諮問に応じて 3 つ目として、企業誘致推進に関する事項というのがあるんです。それがたぶん企業誘致の活動だと思うんですけれども、ここ、先ほど申

し上げたように数年、社会情勢等でかなりむずかしくなっているんですけども、町として姿勢が、町長も先ほど観光と農業が中心とは、一番重きには置いているんですが、そこに移住者とか加えて、今これ、日本中見ても、企業誘致ということ自体が、もうどちらかという時代遅れ的なようになってきたのかなと、自分も思っているんですけども、企業誘致ということ、町長はどのようにご理解をされますでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 企業誘致について、どのように考えているのかということでございます。私といたしましては企業誘致、これは町の経済的な発展を推進する上での重要なポイントであると考えておりますし、また新たな雇用を増やし税収も上がると、人口も増えるというような大きな効果が期待できます。そうなることは、町にとってもありがたいことではありますが、議員がご指摘のとおり、これを実現するということになりますと、非常にハードルが高いというのが現実かと思えます。そういう中で、町としては、もちろん新しい企業に来ていただくために、いろいろなアナウンスを提供できる、ツールをアピールしていくことはもちろんであります。その一方で、現在もうすでに起業されている町内に今ある企業の皆さんに、事業を継続していただく、そしてまた拡大していただく、そういうために、町としてどういうお手伝いができるのかということについても、考えていかななくてはいけないと思っております。例えば、私ここへ来て、企業回りも少しさせていただいたのですが、経営規模を拡大したい、あるいは工場を新たに増設したいという企業もあります。そういった皆さんからお話をお聞きしますと、社員を増やしたい、あるいは地元の若者を採用したいという希望もお聞きしております。そうなりますと、それに対して町が、例えば住宅をどういう形で提供できるのか、あるいは就職していただくために、どういうフォローができるのか、というようなことを一緒に考えていく、そういうことで少しずつ進めているところであります。すぐに結果が出るということは、なかなかむずかしいかと思うのですが、できることを一つずつ確実に進めて行きたい、そういうつもりであります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 町長が、非常に、町内の企業さんとの接触、それもありがたいことで、外から企業さんに来ていただくだけが仕事ではありません。町内企業さんも大事にする。一つお願いしたいのは、町長、大変多忙な身でございますから、一人ではだめなので、当然、副町長がいらっしゃいます。副町長はさらに、産業観光課長、やはり一番地元の地の利の明るいのは事業さん、事業者さんですね。産業観光課長、いやな顔をしないで、副町長と共に町内を回って、そして副町長は町長に情報をあげていくと。そういった、町長一人で、昨日から実は聞いていて、例えば、河川の川のこととか、私見に行きますとおっしゃっていましたし、先ほど、野尻の辺も見に行くと。町長、一人で見に行くのもいいんですけども、川に落ちたり、野尻湖に落ちては困るので、これは部

下に行かせてください。それで、その報告を受ける。見に行くのも大事です。そういったところで、できるだけ観光なり、企業誘致については副町長ということでお願いできればなと思います。それで、ちょっとお伺いしたのですが、昨日、同僚議員がデジタル、DX の話で、外部デジタル人材というところの質問で、総務課長が答弁をいただいたんですけども、副町長が CIO 補佐官というお立場になられて、外の人からの助言を受けて、副町長を中心に動くという、そういった認識で、総務課長よろしいのでしょうか。ちょっと、昨日の復習で申し訳ございません。

●議長 (佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長 (松木和幸) 自治体の DX 推進計画に沿いまして、信濃町の CIO 補佐官というのが副町長になりまして、情報化の統括責任者という立場になります。そこへ人材活用ということで委託契約を結びまして、ノウハウをいただくという形になります。以上です。

●議長 (佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) ちょっと昨日そうかなと、だいたいそう思ってメモは取っていたんですが、非常に同僚議員から良い質問をしていただいたなど。褒めているんですよ。総務課長にちょっとお伺いしたいのですが、以前は企業誘致というのは産業観光課でやっていたんですが、今は総務課さんでいいんですか。その辺、もう一度ちょっと整理したいのですが。

●議長 (佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長 (松木和幸) 現在は、総務課で所管をさせていただく中でやっておりますが、癒しの森の提携企業等もありますので、産業観光課の課長も、副町長と一緒にいられることもよくあることですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長 (佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) となると、総務課長もまた、副町長と共に都市部へ売り込みに行っていたら、産業観光課さんと共に、その辺で、企業誘致を頑張っていたらなと思います。次に、前も、12 月もちょっと質問をして、町長から外交とは、国と国の云々ではございませんでしょうか、みたいなことを言われちゃったんですけども。G7 のサミットも終わりました、まさに非常に、外交という言葉が、少しは我々も耳に残っているんじゃないかなと。我々この自治体、地方自治体で扱っている外交は当然、前も申し上げたように姉妹都市ですね。それから、近隣の市町村とのおつきあい、広域連携も含めてですね。それから、癒しの森の関連企業さん等があると思うんですけども、例え

ばこういった姉妹都市に行くこととか、近隣市町村に動くこと、癒しの森のそういった所へ町長が出向く、もしくは副町長が出向くとなると、理事者が行かれるということ、たぶんパソコン上で、どこへ何日、誰が、どこへ行くと管理していると思うんですけども、総務課長にお伺いしますが、それか庶務係長かなと思ったんですけども、その辺は、町に来てくださいとか、もしくは、近隣から来てくださいとか、姉妹都市にちょっと行こうじゃないかとか、そういった動きのコントロールセンター的な役割は総務課長がやっていますか。ちょっとお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 町長の秘書的な話になろうかと思うのですが、秘書的なものは、私というより、実際の担当は庶務補佐になるところでございます。ただ、通知的には総務課へ直接届く場合もありますし、各課へ直接行って、各課から町長の日程を抑えるという場合もありますので、取るときは総務課が主で取っていきますけれども、そういう場合もあるという状況でございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) やはり、忙しい、もっと忙しくなってほしい理事者、やっぱり町長、副町長がどう動かれるか、総務課長、また課長補佐にかかっているんじゃないかと。それをまたコントロールしていただきながら、特に姉妹都市、町長は昨年行かれて、副町長は姉妹都市、今の所はどうですか。行きましたか。

●議長(佐藤武雄) 小林副町長。

■副町長(小林義之) 副町長になってからは、町長が行っていますので、一緒にはいってないんですけども、産業観光課長であったり、総務課長の時には、流山市へは4回ぐらい行っていますし、能登町にも4回ぐらいは行っております。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) そうなると、副町長は両姉妹都市にはそこそこ行けるなど。実は、ある流山市の私の今持っているパイプから、筋から、副町長にぜひ、もっと来てほしいとオファーが来ています。それについては、同行いただきたいのは産業観光課長ですと、はっきり来ています。これは学校建設にあたっての木材関係で、産業観光課長、何か情報がありましたら、こういう情報があるので、副町長さん、一緒に行きましょうよと、そういった面をまたお披露目いただければと思うのですが、どうでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳希夫) 流山市さん、本年度、みりんの産地ということで、みりんミュージアムの建設等今、進めているということです。また、おおたかの森中学につきましては、信濃町の町産材もご活用いただく中で建設されたと。昨年、建物を拝見させていただいたところです。まだほかにも引き続き計画があるようですので、その辺もお聞きする中で、情報共有していきたいと思います。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 今まさに、流山市さんの三角形のみりんですよ。ボトルがものすごくきれいなんですけども、そういうみりんミュージアムというのが課長の方からも聞こえてまいりました。それが今、これから造るということで、学校に関しては、横川町長時代から、信濃町産の材がけっこういっていますよというのは、私、ここでも答弁をいただきました。そういった意味で、副町長、特にオファーが来ていますから、ありがとうございますというお礼の方々、また次の営業をしてきて欲しいなと思います。それがまたひいては、信濃町の産業振興に繋がっていきけるのではないかなと思います。それで今、近隣なんですけれども、近隣は、これは当然信濃町の観光。例えば、隣の妙高市の観光、飯綱さんの観光と、個々でやっているよりは、町長も3月会議で、お互い点と点じゃなくて線でつないで、次、面でというような、先ほども自転車云々で、長野県どうのとか、ご説明をいただきましたよね。やはりこれからの観光は広域でやっていかなきゃいけないと。そういった中で先般、一茶まつりの中に、俳句大会の表彰式やりまして、妙高市の市長さんがお見えになっていました。妙高市さんというのは、昔からかなり信濃町も、飯綱も当然、教育長さんお見えでございましたけれども、やはりお隣がちゃんと来てくださっていて、特に妙高市さんは、昨年、町長とほぼ同じくらいに市長が城戸さんなられていらっしゃるんですよ。そういった意味で、すぐ向こうさんは、一茶のここに、教育委員会の方でお招きしたと思うんですけども、それにお応えくださって、その次、5月に妙高市としても重要な艸原祭というのがあります。私も過去に何回か出たことあるんですけども、これは妙高市さんというのは、すごく大々的にやりまして、その妙高市さんの姉妹都市、これが4つほど、3つかな、大阪の吹田市とか名古屋の北名古屋市、東京の板橋区、あと海外も姉妹都市、けっこう持って、海外はお見えになりませんが、大々的にその艸原祭というのを、妙高市さんはやられて、非常に大事にしている。かつての妙高高原町の時代からの、昔のかやば焼、そのイベントが今、艸原祭という形でやっていらっしゃるんですが、そういった所からもお招きいただいたのに、残念ながら行政側は、ちょっと今回は出席を見送ってしまったと聞きました。その辺がやはり、来ていただいたのなら、やはりこちらから返礼をします。我々だって、ご近所から野菜でももらえば、何かお返しでもするという、やはり返礼の文化みたいなところがあると思うんですが、行政は特にこれが観光その他、広域的な、県内で言えば広域的なつながり、県外であれば観光であるとか、様々なつながり、我々議会も、当然妙高市の議会さんともつながりを持っております。ということで、やはりこの返礼というものを、町長、どのようにお考えになっていらっしゃるか。たまたま、こ

の間の一茶に対しての艸原祭は、様々状況は、副町長、ちょっと体調悪かったとかいろいろ聞いております。なので、これからの返礼、また近隣との付き合い、来ていただいたらどのようにお付き合いするかと、町長のその辺のこれからの気持ちをお聞かせください。

●議長 (佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長 (鈴木文雄) 近隣市町村、または姉妹都市との関係についてでございますが、これについては、歴史的にも、そしてまた地理的にも深い関係をこれまで紡いできたということですので、これを維持していくのは当然でありまして、さらにその関係を強化していく、そういう役割が私どもに課せられた役割だと考えておりますので、今後とも礼を失することのないようなお付き合いを続けてまいりたいと考えております。

●議長 (佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6 番 (佐藤博一) 町長から、そのような歴史的なものを大事にしながら、それは町長だけの気持ちじゃなくて、各課長さんなり、係長なり、皆さんから歴史的経緯は聞くことができると思いますし、また様々な招待状等、送られてくる一番の窓口である総務課長、その辺は、町役場の歴史をずっと身をもって分かってらっしゃると思いますので、うまくコントロールして、また総務課長補佐と共にやっていただければなと思います。最後、ちょっとざっくり書いたんですけれども、来賓の位置付けということで、町内の町主催の行事や式典、例えば式典ですと、町の功労者、そういった表彰は我々議員も呼ばれてしかるべきものかなと思っております。一番気になったのは、気になったと言うか、いいなと思ったのは学校とか保育園です。コロナ禍の中で、最初、我々議員も呼ばれなくなってしまって、今年の卒業式は議長だけ呼ばれたような話、聞いたんですけれども、かつては、特に卒業式は来賓が 100 人くらい居た雰囲気なんです。感覚でね。今お子さんが 400 人ちょっとだとすると、そこに 100 人も来るのかなと。これが、慣例にすべて基づいて、様々呼ばなきゃいけない団体等があるのかなと、それは事務的な話ですけれども、教育次長どうですか。ずっとそのままいくものなのか、教えてください。

●議長 (佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長 (外谷場佳子) 学校の卒業式、入学式の来賓について、ということでございます。議員の方からご指摘というか、発言にありましたように、ここ数年はコロナ禍ということで、やむを得ず来賓をお呼びできなかったという状況でございます。学校につきましては、それぞれ統合前は、その地区に在住されている議員さんも含めて、住民の代表ということで、お祝いをお願いをしてきたかと思っております。確かに、学校が統合をして、ますます子どもが少なくなっている状況の中で、それがどうなのかということにつきましては、やはり論点としてあるんだろうなどは考えておりますが、学校関係に

つきましては、教育委員会は、お呼びする来賓を決めることについては関与しておりませんので、学校の考えでございます。学校にはそういったご指摘というか、ご意見があったということは、またお伝えしてまいりたいと思います。以上でございます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6 番（佐藤博一） せっかく学校で我々も呼んでいただいたり、学校で考えてくださっていることですので、あんまり外野から余計なことを言うつもりはないんですが、来賓、実際、様々な式典なり見ている、実際出てらっしゃる方と、来賓数を見ていて、なんかこうバランスの問題で、なんかあまり来賓きり多いのもどうかと思った、ざっくりの感覚でございますので、あんまり今回はこれこれというのはありません。ただ、学校はこの春先、学校、保育園は非常にシンプルにやっていただいたことは評価します。そういったことにしまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

●議長（佐藤武雄） 以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後 1 時まで休憩いたします。

(終了 午前 11 時 25 分)